



807-22  
(言語遊戯)

2022年3月

### 『おもしろ漢字辞典 こんな漢じでどうですか?』

ヒューマン中村 作 (KADOKAWA)

表紙を見て「なんだ?この漢字は?」と、ついつい中を見たくなります。本を開いていくと不思議な創作漢字がいっぱいです。すべてに解説が付いているのでわかりやすく、読んでいると思わず笑ってしまいます。

子どもから大人まで楽しめ、漢字に対する興味や関心を持つきっかけになります。クイズもあるので家族や友達ともワイワイ楽しめます。



ニーワク  
(日本の小説)

2022年3月

### 『マジックに出会ってぼくは生まれた』

涌井 学 作 (小学館)

「野生のマジシャン」と呼ばれる手品師をご存じですか? 奈良県の何も無い山奥で育った原大樹さんは、幼い頃から道具を手作りし、独学でマジックを習得してきました。一流マジシャンになる為に高校へ進学しますが、ほどなく理解されないことに苦しみ、理不尽な社会の壁にぶつかります。

将来を見据えた決断と行動には、好きなことに没頭するだけの頃にはない悩みが伴います。大樹さんが悩み考え、マジシャンHARAとして飛躍するまでの軌跡をもとにした物語です。

★「読みたいな」と思った本の予約・問い合わせは、下の図書館までお願いします。

中央図書館	☎072-627-4129	畑田町1番51号
中条図書館	☎072-622-2476	東中条町2番13号
水尾図書館	☎072-637-4416	水尾三丁目3番18号
庄栄図書館	☎072-620-1171	庄二丁目26番12号
穂積図書館	☎072-620-1056	松ヶ本町8番30号 イオンモール茨木内

編集・発行：茨木市立図書館 発行日：令和5年(2023年)3月

令和5年(2023年) 春・夏号



# おもしろい本 みつけた!

## 《中学生・高校生》



1年の間に図書館に入った本を中心に、幅広くおもしろい本を紹介します。

★ホームページにもっています。  
気になる本を見つけたら、さっそく探してみよう!



茨木市立図書館  
おすすめ本のページ



538-22  
(宇宙食)

2022年1月

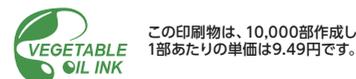
### 『さばの缶づめ、宇宙へいく』

小坂 康之・林 公代 作 (イースト・プレス)

2020年に野口聡一宇宙飛行士が宇宙食としてYouTubeで紹介したのは、福井県の若狭高校が開発したさばの缶づめでした。その缶づめの開発には、2006年の小浜水産高校から始まる10年以上もの長い年月をかけた物語があります。

実現には、設備にかかるコスト問題や高校再編成による学校存続の危機など、大きな壁がいくつもありません。しかし生徒たちができることを考え、学び、迷走しつつも、先輩から後輩に引き継がれていった末に達成される缶づめの宇宙到達に、ダイレクトな感動が得られます。

\*本の表紙は出版社の許諾を得て掲載しています。





ニーカシ  
(日本の小説)

2022年3月

### 『18枚のポートレート』

柏葉 幸子 作 (理論社)  
植田 たてり 絵

私たちの日常生活は、気づいていないだけで不思議なことがいっぱいひそんでいるのかもしれない。そんな物語を18話集めた短篇集です。鬼がかけぬける仁王小路、いちごパフェを食べにきた魔女や、学校で任命された「鬼当番」など、やさしくて少しだけドキッとさせる不思議がつつられています。



ニーヤマ  
(日本の小説)

2022年3月

### 『ギソク陸上部』

山下 白 原案 (Gakken)  
舟崎 泉美 作

中学進学前、命にかかわる大病を患った颯斗は、右足を切断することを決めます。中学2年から復学して陸上部に入るものの、障害者として厳しい現実を突きつけられた結果、退部してしまいます。右足切断の選択は正しかったのか？苦悩する中、義足のパラリンピアンとの出会いが、颯斗に転機をもたらします。

ハンデを負った本人だけでなく、家族や友人たちの変化や、戸惑い、向き合い方といった人間関係も丁寧に描かれています。



K320  
(法律相談)

2022年5月

### 『大人になる前に知ってほしい 生きるために必要な「法律」のはなし』

木村 真美・高橋 麻理・志賀 野歩人 (ナツメ社)  
青木 美佳 監修

契約や結婚などに関係する「民法」が2022年4月に改正され、これまで20歳が「大人」とされてきたのが、18歳から「大人」として扱われるようになりました。また、それに合わせて、少年法も改正されました。

インターネット・学校・男女・家庭などでおこりうる身近なトラブルに対する対処法を、イラストや漫画で幅広く紹介しています。



FーアオーPB  
(日本の小説)

2021年10月

### 『凜として弓を引く』

碧野 圭 作 (講談社)

高校入学を控えた矢口凜は、神社の側の弓道場で弓をひく少年に魅せられたことをきっかけに体験教室に入ります。初めは乗り気ではなかったものの、練習を重ねるうちに弓道の魅力に目覚めます。悩みの多い年頃の主人公ですが、世代や国籍の違う仲間たちと、弓道を通して交流することで成長していきます。

あまり馴染みのないスポーツかもしれませんが、弓道をまったく知らなくても初心者主人公の目線で描かれているので、読んでいくうちに弓道についても知ることができます。



セーピア  
(外国の小説)

2021年12月

### 『空から見える、あの子の心』

シェリー・ピアソル 作 (童心社)  
久保 陽子 訳 平澤 朋子 絵

エイプリルは同級生たちが大人びていく様子についていけず、下級生のお世話をするボランティアを始めました。不思議な行動をとるジョーイを気にかけていたエイプリルですが、ある時彼の素晴らしい才能に気づきます。

誰かと真剣に向き合い、様々な視点から見ることで、その人の個性や長所に気づくことができます。ジョーイと向き合う中で、エイプリル自身の友人との関係性も良い方向へ変わっていく、その姿に勇気づけられることでしょう。



セーロツ  
(外国の小説)

2022年1月

### 『彼の名はウォルター』

エミリー・ロッダ 作 (あすなろ書房)  
さくま ゆみこ 訳

嵐の中、4人の生徒と1人の教師が偶然古い屋敷を訪れました。そこで生徒たちは1冊の本を見つけ、美しい挿絵と相まって展開する物語に魅了されます。彼らは本を読み進めるにつれ、物語と現実との奇妙な一致に気づき、恐怖に怯えながらも、最後にはある真実に辿り着きます。

生徒たちが本に魅入られていく様子や、物語と現実が呼応する描写にどんどん引き込まれていきます。